

●協働学習 ■同時進行型

実践タイトル 多様な意見を一齐に提示し考えを深め合う

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

・タブレットPCに書いた自作問題をクラスで共有し、交流することで関心を高め、理解を深めさせる。

静止画

・具体的な画像資料を提示し、学習上のヒントを見つけさせる。

参考にしてほしいポイント

- ・全児童の書いた万葉仮名言語を、電子黒板に分割画面で映し出し、課題に取り組む意欲を高める。
- ・実物投影機で映し出した万葉仮名表をもとにして読み解いていく。
- ・タブレットPCには必要な時だけ書き込ませるように指導しておく。「書き込み禁止」機能もある。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	・万葉仮名でかかれた言葉を読み当てる。 ・デジタル教科書により学習課題を確かめる。	・指導者用デジタル教科書(国語)
展開 5 30	漢字と仮名の性質の違いを理解する ・「絵」と「え」の文字から連想するものをタブレットPCに書き込んで、電子黒板にそれぞれ一斉表示し、漢字と平仮名の違いを感じる。 ・教師の用意した4種類の文章「漢字のみ」「平仮名のみ」「片仮名のみ」「漢字仮名交じり」を比べ、日本の言語に関する由来を思い出しながら、漢字と片仮名の特色を理解する。 ・1人目がタブレットPCに作った万葉仮名問題を、もう1人の児童が4種類の文章に直し、漢字仮名交じり文についてペアで意見交流する。	・タブレットPCに連想した言葉を書き込んだ静止画(写真1) ・実物投影機でデジタル黒板に映した万葉仮名表(写真2) ・児童がタブレットPCで練習問題を作る様子(写真3)
まとめ 30 45	・児童の作った練習問題をピックアップして提示し、現在の日本の表記法が漢字と仮名の特色を活かしたものであることについて、討議し考えを深め合う。 ・板書を見てノートをまとめる。	

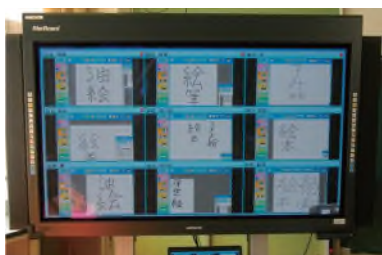


写真1: タブレットPC画面の一斉表示

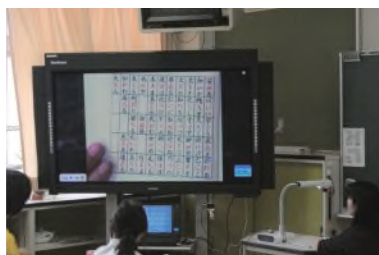


写真2: 万葉仮名表を使い問題を作る・解く

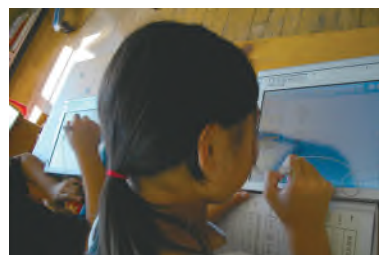


写真3: タブレットPCで練習問題を作る

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・タブレットPCの児童画面を電子黒板で9分割にして一気に映し出すことで「絵」は意味と音を表し、「え」は音のみを表すことに気付いたり、感覚でとらえたりしやすかった。
- ・タブレットPCの内容に、電子黒板から書き込みができるので、学習をまとめやすく理解を深めさせることにも役立った。

活用効果

評価の観点	・言語についての知識・理解・技能	具体的変容	・タブレットPCの一斉表示は、具体的に書かれた画面を見ることで、意図することがイメージしやすい。展開の初段階で漢字と仮名の性質の違いを感覚的につかめた児童が多かった。
-------	------------------	-------	---

実践の手応え

- ・児童はタブレットPCを自由に使いこなしている。多様な意見を一度に電子黒板に表示して使う方法は視覚から感性に訴えることができ、言語化する前の段階として有効であった。また日本語に親しむ雰囲気が生まれ、話し合いも活発化したので考えを深め合う学習ができた。